



# 若松小だより

令和8年度6月号 No.3  
令和8年6月1日  
府中市立若松小学校  
校長 生井 信太郎

自ら考える子 思いやりのある子 たくましい子

## 運動会を通して

校長 <sup>なま</sup>生井 信太郎

5月16日に運動会が実施され、多くの地域、保護者、関係の皆様にご参観いただきました。今年度から参観の入れ替え制をとりやめ、全ての学年のがんばりをご覧いただけるようにしました。また、正面に設置していた本部や来賓用のテントをサイドに移動し、正面から多くの方が参観できるようにしました。当該学年の保護者が優先的に見られるように、PTAの方やお手伝いの中学生がアナウンスをしてくれましたが、皆様が譲り合って気持ちよくご覧になっていたのも、大変ありがたいなと思いました。皆様のそうした姿は子供たちのロールモデルとなり、必ず引き継がれていくものと思います。

その学年らしさ、そして子供たち一人一人の自分らしさが存分に発揮された運動会でした。また、他の学年の頑張りに声援を送るなど、全校の一体感が際立っていました。

温かいご声援をありがとうございました。関わっていただいた全ての方に感謝申し上げます。

「それでも息子を日本の小学校に通わせたい」という本を読みました。作者の山崎エマさんは、1989年生まれで、イギリス人の父と日本人の母をもつドキュメンタリー監督です。6歳で親元を離れてイギリスの小学校に通い、帰国して大阪の公立小学校、神戸のインターナショナルスクール、アメリカのニューヨーク大学と、各国の多様な教育を受けてきました。日本の小学校を題材にしたドキュメンタリーも監督しています。書籍の中で、「子どもたちは、授業の中だけでなく『暮らしの中で学ぶ』ことを通して、自分の役割や他者との関わり方を心と体で覚えていく。そうした人間形成に深く関わる『勉強を超えた学び』の仕組みこそが、日本の教育システムの特徴です。」と述べています。日本の小学校で最も強く思い出に残っているのが、運動会の組体操で、「努力した先に見える景色、絶対できないと思ったことができるようになる感覚を身体的にも精神的にも学んだ」そうです。掃除や給食などの当番活動、係活動や委員会活動、運動会をはじめとする各種行事……。これらは世界的に見るとユニークな取り組みで、日本の教育システムの強さだ、とも書いています。

私たちが日々がんばっておこなっている「日本型の学校教育」を応援してくれる人がいることに心強さを感じました。

運動会の練習中からそうでしたが、今年も大変な暑さが予想されます。「暑熱順化」をする暇もなく暑さが出てきそうな気がします。今年度も学校では熱中症対策をしっかりと行います。ご家庭でも水分を多めに持たせる、帽子をかぶらせるなどのご協力をお願いいたします。